

令和8年度
校長だより

あかつき 7月号



～ あかつき山の麓から感謝を込めて ～

丹波市立新井小学校 校長 荻野由香里

支え合い、共に成長した1学期 ～温かい見守りに感謝を込めて～

梅雨が明け、夏本番を迎える時期となりました。地域の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、平素から本校の学校教育活動へのご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年7月30日には、柏原町で41.2℃が観測され、「日本一暑い町」として報道されましたが、年々暑さが厳しくなっているように感じます。健康管理や生活の工夫をしながら、この暑さを乗り切っていきたいものです。

さて、今月21日に1学期の終業式を迎えます。1年生は70日、2年生から5年生は71日の授業日数を経て1学期を終えることとなります。

4月に入学した1年生も、同学年の学習や活動はもちろん、異学年とも交流しながらたくさんの経験をして、たくましい「新井っ子」に成長してきました。また、5・6年生は高学年として、下級生に優しく関わり、温かい新井小学校の雰囲気をつくってくれています。徒歩通学に慣れない1年生が多い中、歩くスピードを合わせ、安全に登校できるようリードしてくれたのも高学年の子どもたちです。保護者や地域ボランティアの皆様の温かい見守りもあり、大きな事故なく1学期を終えられることに深く感謝いたします。

7月22日から8月31日までは夏休みとなります。子どもたちにとってはワクワクする毎日の始まりです。学校生活から離れて家庭や地域で過ごす時間が増える分、大人の目が届きにくくなる場面もあるかもしれません。しかし、それは同時に、自分で考えて判断し、行動したりチャレンジしたりするチャンスでもあります。

子どもたちが、安全に気をつけて充実した夏休みを過ごせるよう、引き続き、家庭や地域での見守りをよろしくお願いいたします。



▲今年度のクラブ活動は地域のゲストティーチャーと一緒に活動しています！

ことばでつながり、高め合う ～新井っ子が育む「対話」の力～

今年度、本校では「ことばでつながり、高め合う新井っ子の育成～「情報」「自分」「他者」との対話を通して～」をテーマに掲げ、日々の授業づくりを進めています。子どもたちに身につけてほしい「対話」の力として、以下の姿をめざしています。

「情報」との対話：自分が知りたい情報を教科書や資料、ICT 等から取り入れる。

「自分」との対話：取り入れた情報をもとに考えを整理し、自分なりの考えをもつ。

「他者」との対話：他者と考えを交流し、深まり・広がることで学び合う。

日頃の子どもたちの様子を見ていますと、自分の気持ちを伝えるためのことばが不足していたり、どのように表現すればよいかかわからなかったりして、小さな誤解やすれ違いを生んでしまう場面が少なくありません。昨今は、社会全体におけるコミュニケーション、特にインターネットや SNS において、短いことばだけのやりとりが増加しており、こうした環境が、子どもたちにも少なからず影響を与えていると感じます。

ことばを駆使して自分の思いを相手に伝えたり、想像力を働かせて相手の思いを理解したりすること。そして、それらを重ねることで、自分一人では思いつかなかった「最適解」にたどりつくこと。こうした「対話」の力は、学校での学習はもちろん、豊かな生活を送る上でも極めて重要です。また、ことばそのものに関心を持ち、一つひとつのことばを大切に遣う意識も育んでほしいと願っています。

ご家庭や地域におかれましても、子どもたちがことばを通じて心を通わせる「対話」の機会を、ぜひたくさん経験させていただければ幸いです。

認め合う温かさが生む勇気 ～拍手で支え合う新井っ子のチャレンジ～

先日、企画委員会主催の「N-1 グランプリ」が開催されました。これは、全校児童の前で自分が得意なことや表現したいことを披露するイベントです。体育館のステージに立ち、ダンスやサッカーの技、鍵盤ハーモニカの演奏や縄跳び等、堂々とした姿で発表する様子は見事なものでした。また、発表を観ている子どもたちからは、温かく大きな拍手が湧き起こり、この「認め合う雰囲気」があるからこそ、安心してチャレンジできるのだと改めて実感しました。

今後も、子どもたちが一歩を踏み出し、挑戦する姿を楽しみに見守りたいと思います。

